

第3号様式

(第1面)

事業活動地球温暖化対策結果報告書

(あて先) 川崎市長

郵便番号 〒140-0002

住 所 東京都品川区東品川2-2-24 天王洲セントラルタワー 27階

氏 名 サンアロマー株式会社

代表取締役社長 高岡 博 印

(代理人)川崎工場長 椋木 伴弘

(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

川崎市地球温暖化対策等の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり提出します。

事業者の氏名 又は名称	サンアロマー株式会社		
主たる事務所 又は事業所の所在地	川崎市川崎区千鳥町13-1		
該当する事業者 の要件	<input checked="" type="checkbox"/> 規則第4条第1号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第2号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第3号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 規則第4条第4号該当事業者		
	<input type="checkbox"/> 上記以外の事業者 (任意提出事業者)		
主たる事業 の業種	大分類	E	製造業
	中分類	16	化学工業
主たる事業 の内容	プラスチック製造業		
事業者の規模	<input checked="" type="checkbox"/> 原油換算エネルギー使用量	11,078	k l
	<input type="checkbox"/> 自動車の台数		台
	<input type="checkbox"/> エネルギー起源の二酸化炭素 以外の温室効果ガスの排出の量		t-CO ₂
連絡先	担当部署	担当部署名	
		所在地	
		電話番号	
		FAX番号	
		メールアドレス	

※受付欄		※特記事項	※事業者番号	

(第2面)

計画期間及び報告年度	2022 年度 ~ 2024 年度 (報告年度 2024 年度分)
温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況及び温室効果ガスの排出の量	別添 指針様式第2号のとおり
温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
他の者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況	別添 指針様式第2号のとおり
その他地球温暖化対策の推進への貢献に係る事項	別添 指針様式第2号のとおり
備考	

- 備考 1 欄内にすべてを記載できない場合は、別紙により提出してください。
2 □のある欄は、該当する□内にレ印を記載してください。
3 報告書には、事業活動地球温暖化対策指針に定める資料を添付してください。
4 ※印の欄は記入しないでください。
5 氏名（法人にあっては、その代表者）を記載し、押印することに代えて、本人（法人にあっては、その代表者）が署名することができます。

事業活動地球温暖化対策結果報告

1 温室効果ガスの排出の量の削減目標の達成状況（第1、2、4号該当者等）

(1) 計画期間における温室効果ガスの排出の量等の状況

ア 温室効果ガスの排出の量

	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標排出量
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)	
排出量 (t-CO2)	(実) 24,957	(実) 22,065	(実) 21,722	(実) 22,773	(実) 22,707
	(調) 24,957	(調) 22,065	(調) 21,722	(調) 22,773	(調)
削減率		(実) 11.6 %	(実) 13.0 %	(実) 8.8 %	(実) 9.0 %
		(調) 11.6 %	(調) 13.0 %	(調) 8.8 %	(調) %

イ 温室効果ガスの排出の量に係る原単位等の値（任意記載）

原単位等の活動量	生産数量				原単位等の単位	t-CO2/t
	基準年度	第1年度	第2年度	第3年度	目標とした値	
	(2021年度)	(2022年度)	(2023年度)	(2024年度)		
排出量原単位等の値	0.1716	0.1771	0.1676	0.1980	0.1702	
活動量の値	145,400	124,551	129,535	114,966	-	
排出量原単位等の削減率		-3.2 %	2.3 %	-15.4 %	0.8 %	

ウ 計画期間の温室効果ガスの排出の量の状況等についての説明

第1年度	計画外停止により工場の生産量が低下したためCO2排出量も低下した。CO2排出量の原単位は基準年比3.2%の悪化となった。				
第2年度	生産調整停止により工場の生産量が低下したためCO2排出量も低下した。CO2排出量の原単位は基準年比2.3%の良化となった。				
第3年度	定期修理工事や生産調整停止により工場の生産量が大幅に低下したが、使用電気の排出係数の見直し(代替値→ENEOSに変更)により、CO2排出量が増加した。CO2排出量の原単位は基準年比15.4%の悪化となった。				
計画期間における排出量増減等の評価 (第3年度の報告時に記載)			排出係数変更の影響を除いた原単位は大きくは悪化していない。フル生産環境になかったため、過去対比での改善は厳しい状況だが、プロセス最適化等による原単位改善は継続中。		
上記評価を踏まえた改善対策など (第3年度の報告時に記載)			設備性能の限界に近付きつつあり、今後の効率改善余地は少ないが、多様な視点からの省エネの案件出しを推進し、より一層の排出量削減につなげたい。		

(2) 温室効果ガスの排出の量の状況（全社目標）（任意記載）

--

3 温室効果ガスの排出の量の削減目標を達成するための措置の実施状況

(1) 措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない装置を実施した場合は、実施した内容の最後に（追加実施）と記載してください。)

<p>計 画</p>	<p>1) 管理標準、保全計画に基づくエネルギー使用設備の運転管理 2) 熱使用設備 2-1) スチームトラップの検査、補修の実施 2-2) 保温、保冷の補修、強化の実施 3) 電動機使用設備更新時の高効率製品の採用 4) 空調更新時のエネルギー効率改善 5) 工場照明のLED化</p>
<p>第1年度</p>	<p>1) エネルギー使用設備の保全は保全計画に則り、継続実施中 2-1) スチームトラップの検査、補修を継続して実施 2-2) 保温、保冷の補修、強化を都度実施 3) インバーター更新等の事例無し 4) エアコン更新等の事例無し 5) 照明の一部LED化を実施した</p>
<p>第2年度</p>	<p>1) エネルギー使用設備の保全は保全計画に則り、継続実施中 2-1) スチームトラップの検査、補修を継続して実施 2-2) 保温、保冷の補修、強化を都度実施 3) インバーター更新等の事例無し 4) エアコン更新等の事例無し 5) 照明の一部LED化を実施した</p>
<p>第3年度</p>	<p>1) エネルギー使用設備の保全は保全計画に則り、継続実施中 2-1) スチームトラップの検査、補修を継続して実施 2-2) 保温、保冷の補修、強化を都度実施 3) インバーター更新等の事例無し 4) エアコン更新等の事例無し 5) 照明の一部LED化を実施した ※2022年以降の合計で46MWh/年相当の省エネルギーにつなげることが出来た 6) プロセス最適化による動機器の電力削減（追加実施） ※2023年以降4件の施策を実施しており、フル生産前提で419MWh/年相当の省エネルギーにつなげることが出来た</p>
<p>計画期間における取組の評価 (第3年度の報告時に記載)</p>	<p>1) 2) 5) については計画通り継続的に実施。3) 4) については期間中に更新事例が発生しなかった。 5) はCO2換算で約20ton/年相当の改善となる。 6) については、CO2換算で約200ton/年相当の改善となる。</p>

(2) 再生可能エネルギー源等の利用等

ア 前年度における再生可能エネルギー源等の利用に係る検討状況

(追加検討を実施した場合は「○」、追加の検討を実施していない場合は「×」を記載してください。また、追加検討を実施した場合はその結果を記載してください。)

再生可能エネルギー源等の種類	追加検討の有無	検討結果
太陽光	×	
風力	×	
バイオマス	×	
未利用エネルギー	×	
その他 ()		
その他 ()		

イ 再生可能エネルギー源等を利用した設備の導入状況・計画及び再生可能エネルギー源等の価値の保有状況・計画

種類	概要(規模、場所など)	導入(保有)年度
太陽光発電設備	千鳥自動倉庫屋上に390kwの発電パネルを設置(473,850kwh/年見込み、自家消費)	2028年設置予定

(3) 前年度に実施したエネルギーの効率的な利用を図るための設備等の導入状況

(追加導入がある場合は「○」、追加導入がない場合は「×」を記載してください。)

設備等の種類	追加導入の有無	設備等の種類	追加導入の有無
電気自動車等への充電設備	×	エネルギー管理システム(FEMS、BEMS等)	×
電気自動車等から建物等への給電設備	×	その他 ()	
EV、PHV、FCV	×	その他 ()	

4 他者の温室効果ガスの排出の抑制等に寄与する措置の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	なし
第1年度	なし
第2年度	なし
第3年度	なし

5 その他、地球温暖化対策の推進への貢献の実施状況

(各年度において、計画に記載がない措置を実施した場合、実施した内容の最後に(追加実施)と記載してください。)

計 画	<ul style="list-style-type: none"> ・グリーン購入制度の対象商品を優先して購入する。 ・廃棄物の分別化・再利用化を継続する。 ・製品生産時のエネルギー由来CO2排出量を低減することで、製品ライフサイクルとして、より環境負荷の少ない製品を顧客に提供する。
第1年度	<ol style="list-style-type: none"> 1) グリーン購入制度の対象商品を優先して購入した。 2) 廃棄物についてはゼロエミッション(埋め立て処分ゼロ)を達成するとともに、廃棄物の分別化や再利用を促進した。 3) 製品ライフサイクル中での環境負荷低減、生産数量当たりの排出原単位削減を実現し、顧客に環境負荷の少ない製品を提供しようとしている。
第2年度	<ol style="list-style-type: none"> 1) グリーン購入制度の対象商品を優先して購入した。 2) 廃棄物についてはゼロエミッション(埋め立て処分ゼロ)を達成するとともに、廃棄物の分別化や再利用を促進した。 3) 製品ライフサイクル中での環境負荷低減、生産数量当たりの排出原単位削減を実現し、顧客に環境負荷の少ない製品を提供しようとしている。 4) 2023年7月にISCC PLUS認証を取得し、バイオマス原料を一部使用する製品に対して、マスバランス方式によりバイオマス原料由来の持続可能特性を割り当て、販売することが可能となった。2024年より当該製品を販売開始予定。(追加実施)
第3年度	<ol style="list-style-type: none"> 1) グリーン購入制度の対象商品を優先して購入した。 2) 廃棄物についてはゼロエミッション(埋め立て処分ゼロ)を達成するとともに、廃棄物の分別化や再利用を促進した。 3) 製品ライフサイクル中での環境負荷低減、生産数量当たりの排出原単位削減を実現し、顧客に環境負荷の少ない製品を提供しようとしている。 4) 2023年7月にISCC PLUS認証を取得し、バイオマス原料を一部使用する製品に対して、マスバランス方式によりバイオマス原料由来の持続可能特性を割り当て、販売することが可能となった。2024年より当該製品の販売を開始した。

6 基準年度からのエネルギー起源CO₂の排出の量等の推移 (1、2号該当者等)

(1) 事業者単位

	基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
エネルギー起源 CO ₂ 排出量	24,957 t-CO ₂	22,065 t-CO ₂	21,722 t-CO ₂	22,773 t-CO ₂
原油換算エネルギー 使用量	13,320 KL	11,981 KL	12,085 KL	11,078 KL
事業所の数	2	2	2	2

(2) 事業所等単位

ア 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 1,500kl 以上の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度
サンアロマー株式会社 製造本部 川崎工場	川崎市川崎区千鳥町 1 3 - 1	24,435	21,556	21,225	22,196

イ 基準年における年間の原油換算エネルギー使用量が 500kl 以上 1,500kl 未満の事業所

事業所の名称	事業所の所在地	エネルギー起源CO ₂ の排出量 (t-CO ₂)			
		基準年度	第 1 年度	第 2 年度	第 3 年度